

## 『技術と教育』第300号によせて

佐々木 享

### 『会報』第300号を祝う

技術教育研究会の『会報』は、1960年2月に発行され始めた。第1号発行から数えて38年目にして第300号を迎える。第1号から講読し、『会報』とともに歩いて来たきた者の一人として、感慨無量であり、嬉しい限りである。この『会報』の跡を振り返るとともに、若干の感想と今後の課題の課題を思いつくままに記してみる。

### 『会報』は連帯の絆（きずな）

私たち技術教育研究会は1968年以来毎年夏に全国大会を開催しているが、全国各地にいる会員がいつも集まれるわけではない。したがって日常的にはこの『会報』が、北は北海道から南は沖縄で技術教育・職業教育訓練にたずさわりの民主化、拡充強化に奮闘している会員を結びつける役割を果たしている。その意義は計り知れない程大きい。

今後とも『会報』のこの役割を全うさせるためには、常任委員会の努力はもちろんのこと、全国各地の個々の会員からの情報発信が不可欠である。会員各位にこの面でのいっそうのご協力を期待し、お願いしたい。

### 会員拡大に『会報』や雑誌の活用を

私たちは、技術教育や職業教育はたんに社会の発展に重要であるだけでなく、人間形成に重要な役割を果たしていると考えており、その役割にふさわしく発展・充実させたいと考えている。ここに技術教育研究会の創立以来の原点がある。

ところで現実世界では、たとえば学校教育関係でみると、小学校には技術教育の教科は

ないに等しいし、いまなお技術科は中学校にしか設置されていない。高校の技術教育関係の教科も、工業関係学科中心にならざるを得ない。最近では職業能力開発と称される職業訓練にたずさわりの人びとも、学校教育に比べるとずっと少ない。しかし、全国で技術教育や職業教育にたずさわっている人びとはかなりの数になるはずで、そのなかには、技術教育や職業教育の充実・民主的発展に意を用いている人も少なくないはずである。また他方では、一人孤立して悩んでいる人もまた少なくないはずである。

技術教育研究会の運動は、こうした人びとと連帯し、ともに考え、運動しようと考えたところに成立した。このことは、今後とも変わらないはずである。運動を拡大発展させるために、この『会報』を活用することを全国の会員にせつをお願いしたい。

### 技術・職業教育研究の前進のために

技術教育や職業教育は、直接に政治や経済の影響を受けることが多く、そのためのひずみや悩みも多い。他方、私たち技術教育研究会には、他の民間教育研究団体に比べて、研究者をかなり組織している。現場の発想とともに研究者の力量を活用するというこの強みを発揮して、今後とも、技術・職業教育研究の前進のために貢献したいと思う。

### タチカワ印刷さんに感謝

最後に、第15号（1961年4月号）以来今日まで、『会報』の印刷発行について全面的にお世話になってきたタチカワ印刷さんに、心からの感謝の意を表したい。（前代表委員）